

平成 30 年 6 月 5 日現在

機関番号：10102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02238

研究課題名(和文) 戦前期プロレタリア文化運動資料研究

研究課題名(英文) Research into Materials on the Prewar Proletarian Cultural Movement

研究代表者

村田 裕和 (Murata, Hirokazu)

北海道教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：10449530

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では1920年代から30年代にかけて行われた「プロレタリア文化運動」に関する資料の調査と研究を行った。国内の4カ所の所蔵元を訪れ、約4000点の資料をデジタルカメラで撮影し、その中から選別した2857点について、検索機能付きDVDに収録して『昭和戦前期プロレタリア文化運動資料集』(丸善雄松堂、2017年)として刊行した。労働者による文化運動の実態がわかる貴重な資料であり、その発行地は28道府県におよぶ。ガリ版印刷の資料が約1000点含まれている点も特徴の1つである。

研究成果の概要(英文)：This research project entailed an investigation into materials on the “proletarian cultural movement” of the 1920s through the 1930s. We visited four archives within Japan and photographed some 4,000 items with a digital camera. Of these, we selected 2,857 items and published them as a searchable DVD, Showa Senzenki Proletaria Bunka Undo Shiryoshu (Documents of the Proletarian Cultural Movement of the Prewar Showa Era.) (Maruzen Yushodo, 2017). These valuable materials, issued in 28 different prefectures, clarify the actual nature of the cultural movement as carried out by laborers, and are notable for the inclusion of some 1,000 mimeographed items.

研究分野：日本近代文学

キーワード：文化運動 プロレタリア 文学 演劇 映画 美術 音楽 ガリ版印刷

### 1. 研究開始当初の背景

戦前、1920年代から30年代前半にかけて流行した「プロレタリア文化運動」は、労働運動・階級闘争の一翼を担う文化運動であった。社会主義・共産主義など、左翼的思想を背景としていたために厳しい弾圧を受けたことでも知られる。ここには、文学をはじめとして、演劇、美術、映画、音楽など、多様な文芸ジャンルの作家や批評家が集い、一般の労働者たちも参加して活発に活動していた。戦後、言論の自由が回復されると多くの証言や回想が提出され、書籍・パンフレット・雑誌・新聞などの発掘と紹介も行われて研究が進んだ。しかし、運動の現場では、公刊された印刷物の他にも、多種多様な印刷物や書類が作成され、配布・回覧されていた。それらの一次資料については、一部の研究者が参照してきたものの、全体像は不明のままであり、詳細な検討がなされていなかった。

### 2. 研究の目的

本研究では、文化運動の活動の中で作成されたビラ、ニュース、公演プログラム、チラシその他の一次資料について、それらを所蔵している個人・団体(機関)に協力を依頼し、調査・分析をおこなうとともに、それらの資料をデジタルカメラ撮影し、画像資料集として公開することを第一の目的とする。また、前述のように多様な文芸ジャンルで構成されているため、それぞれの研究分野でプロレタリア文化運動に関心を持つ研究者に呼びかけて共同研究を実施し、資料に基づく各自の研究を研究論集として刊行する。

### 3. 研究の方法

調査対象とした一次資料の所蔵者(所蔵元)は、下記の通りである。

- (A) 浦西和彦氏所蔵資料
- (B) 市立小樽文学館所蔵池田壽夫旧蔵資料
- (C) 法政大学大原社会問題研究所所蔵資料
- (D) 札幌大学図書館所蔵松本克平旧蔵資料
- (E) 日本近代文学館所蔵貴司山治旧蔵資料

研究グループでは、これらの所蔵元を訪問し、協力を依頼した上で、調査と撮影を実施した。調査対象となった資料の数は、最終的に4000点以上にのぼった。所蔵元ごとに、コレクションの構成や状態がさまざまであり、ここでは調査の実際を細かく述べることは控えるが、いずれも研究目的をご理解いただき、考え得る限りの最良の対応をとっていただくことができた。

調査と撮影には、研究グループが協力して携わった。今回の研究は、研究者自身のジャンルを超えた交流が必要とされるものであり、特定のジャンルの研究者だけでは完遂することはできなかった。また、資料集を刊行した出版社および担当編集者の強力なバックアップによって研究を完了することができた。

### 4. 研究成果

#### (1) 資料の全体像

調査した資料の内、重複をのぞき、諸条件を勘案した上で、2857点を選び、検索機能付きDVD2枚に収め、『昭和戦前期プロレタリア文化運動資料集』(丸善雄松堂、[図1](#)参照)として2017年10月に刊行した。ここに収められた資料の種類は実に多様である。大別すれば、( )1920年代から30年代にかけて活動したプロレタリア文化団体の内部資料(「ニュース」「報告」「宣言文」「声明文」「檄文」)、( )左翼劇団を中心とする演劇資料(「ポスター」「チラシ」「プログラム」「パンフレット」「入場券」)、( )肉筆資料(「はがき」「書簡」「メモ」)、( )山田清三郎がプロレタリア作家に実施した「アンケート」、( )「稀少雑誌」である。



図1: 『昭和戦前期プロレタリア文化運動資料集』トップ画面

( )は、組織活動にかかわる内部資料である。日本プロレタリア文芸聯盟、日本プロレタリア芸術聯盟、全日本無産者芸術聯盟/同芸術団体協議会(ナップ)、日本プロレタリア文化聯盟(コップ)、労農芸術家聯盟その他の文戦派(労農派)など、主要な文化団体の文書がその下部組織や地方組織も含めて幅広く収録されている。戦旗社の内紛や、文戦打倒同盟・第二文戦打倒同盟など、運動史上のターニングポイントとなった事件にかかわるビラ類もある。また、労農派の資料が充実している。報告や宣言は、それぞれの機関誌に掲載されている場合もあるが、本資料集によって決定までの過程をたどることができ、運動をより立体的に捉えることが可能となった。

( )の演劇に関する資料は、全体の半数以上を占める。東京左翼劇場、大阪戦旗座、京都青服劇場や、移動劇団のメザマシ隊、メガホン隊など、プロット加盟の左翼劇団の他、築地小劇場、新協劇団、新築地劇団の資料も豊富である。演劇史資料としてきわめて価値が高い資料群である。

( )は、主に( )に付随するような肉筆資料である。断片的なものが多いが、運動史に個人レベルの動きを重ねることによ

て、運動の細部や、相互的なネットワークを解明する手掛かりの一つとなるだろう。

( )は、山田清三郎が一九二九年に四二名のプロレタリア作家に実施したアンケートで、本資料集の中でも特異的な資料の一つである。現在、大和田茂氏・竹内栄美子氏を中心として「昭和戦前期プロレタリア文化運動資料集を読む会」が結成され、アンケートの解読が進められている。

( )の稀少雑誌は、創刊号から比較的まとまっている数例を挙げると、コップに所属した戦闘的無神論者同盟の機関誌『戦闘的無神論者』(6冊)、プロレタリア作家クラブの機関誌『労農文学』(9冊)、アナキズム系の『文学通信』(17冊)などである。他にも『ソヴェートの友』『月刊新協劇団』『新築地』などが多数ある。

以上とは別に、大きな特徴が2点ある。1つは資料の地域的な分布の広さである。資料集では、道府県単位でも検索できるようになっているが、北は北海道(図2参照)から南は福岡まで27の道府県に及んでいる。約1000点が東京以外の地域で発行されたものである。中でも大阪・京都・名古屋の資料が多く、これらの地域では、各同盟の「支部」という位置づけながら、活発に活動がおこなわれていたようである。都市部以外では長野県が群を抜く。文化運動は知識人たちの晦渋な言葉の中にあっただけではなく、地方の芝居小屋や公会堂こそが運動の「現場」だったという思いを強くする。今後、詳しく分析することで、「中央」と「地方」、あるいは「地方」同士の複雑で重層的な関係性が明らかになるだろう。



図2:「遠隔の地にひとり戦ひつゝある同志を見殺しにするな!」(日本プロレタリア芸術聯盟、1927年)

2つ目は、ガリ版刷り資料の豊富さである。資料集では、活版、孔版(ガリ版)、ペンなど、印刷・筆記の種類についても簡易的な検索が可能で、ガリ版印刷は1100点ほどヒットする。これらは印刷技術・印刷文化史からみても貴重な資料であろう。

## (2) 所蔵元別の概要

次に、資料の所蔵元ごとに明らかとなったその概要を記す。(括弧内は資料集に収録した点数)

(A) 浦西和彦氏所蔵資料(661点)

プロレタリア文学研究・書誌研究の第一人者浦西和彦氏が長年収集されてきた資料の内、単行本等を除く文化運動関係の一次資料である。ご自宅を訪問して資料を拝見したが、2013年3月であった。浦西氏は2017年11月に逝去されたが、その前に完成を報告できたことがせめてもの慰めである。現在、資料は、日本近代文学館に寄贈されている。関西文学に造詣の深い浦西氏のコレクションだけあって、関西を中心とする文化運動資料が豊富にあるとともに、関西新劇に関する資料も多く含まれていた。

(B) 市立小樽文学館所蔵池田壽夫旧蔵資料(85点)

日本プロレタリア文化聯盟(コップ)に関わった池田壽夫の旧蔵資料の内、ボール紙の表紙をつけて仮綴じされた19冊の内部資料である。ご遺族が多喜二にゆかりある土地の文学館にということで、小樽に寄贈されたと聞く。全国の各支部からの報告が集積されており、コップがどのように機能していたかを知る手掛かりとなる。

(C) 法政大学大原社会問題研究所所蔵資料(1337点)

請求記号「TC1」～「TC11」の全部および、その他の請求記号の資料の中からプロレタリア文化運動に関連する資料を選別して収録した。同研究所が所蔵する一次資料は膨大であるが、戦前大阪にあったことから関西の資料が豊富で、また文戦派・労農派の資料が充実している。保存状態も極めて良好であるものが多く、本コレクションによって、文化運動の全貌が相当鮮明となった。

(D) 札幌大学図書館所蔵松本克平旧蔵資料(773点)

同図書館が所蔵する「松本克平スクラップブック」(全36冊)の内、プロレタリア文化運動に直接関わる一次資料を収録した。これらは、山口昌男学長時代に受け入れたとのことで、学内で整理が進んでいた。既存データを活用させていただくことができたおかげで、作業は大幅にはかどった。

(E) 日本近代文学館所蔵貴司山治旧蔵資料(1点)

日本プロレタリア写真家同盟の委員長でもあったプロレタリア作家貴司山治が所蔵していた資料の内、「プロ・フォト・ニュース」一点である。写真家同盟に関する資料は皆無に近く、少なくとも文書上の「存在」が確かめられる貴重な資料であるため、特に収録することとした。他の貴司山治旧蔵資料には原稿が多く、今回の調査対象ではないため見送った。

## (3) 資料のジャンル別分類

資料集に収録した資料は、団体の属性にしたがって、9つのジャンルに分類した。(表1参照)

文学

文学者団体に関わる資料。『レフト』『労農

文学』『文学通信』等の稀少文芸雑誌を含む。主な団体は日本プロレタリア作家同盟(ナルプ)やその地方支部、労農芸術家聯盟など。

#### 演劇

劇団、公演など演劇活動に関わる資料。築地小劇場、左翼劇場、大阪戦旗座、京都青服劇場、移動劇団のメザマン隊、新協劇団、新築地劇団、文戦劇場など多数の劇団に関するチラシ、パンフレット、舞台写真、内部資料。

#### 映画

映画団体、上映会に関する資料。上映会告知のビラ、ニュースなど。労働者向けの上映イベントが各地で開催されていた。主な団体は、日本プロレタリア映画同盟(プロキノ)、プロキノ大阪支部など。

#### 美術

美術家団体、絵画、マンガに関する資料。主な団体は、日本プロレタリア美術家同盟(ヤップ)、『プロ美術』『労働者マンガ』など希少資料多数。『マヴォ』関連資料も含まれている。

#### 写真

日本プロレタリア写真家同盟に関する資料。幻の「プロ・フォト・ニュース」(図3参照)他1点。



図3:「プロ・フォト・ニュース no.6」(日本プロレタリア写真家同盟、1932年)[部分]

#### 音楽

音楽家団体、音楽イベントに関する資料。日本プロレタリア音楽家同盟(P・M)、『音楽新聞』や『P・Mニュース』など。大阪支部の希少資料を含む。

#### 思想・宗教

社会科学や哲学、宗教批判に関する資料。主な団体はプロレタリア科学研究所、戦闘的無神論者同盟、反宗教闘争同盟等。『われらの世界』、『われらの科学』、『戦闘的無神論者』、『反宗教』、『反宗教闘争』などの希少な機関紙・パンフレット等。

#### 政治(上部団体)

文化団体の中央機関、宣伝に関する資料。檄文、声明書、ニュースなど。主な団体は全日本無産者芸術団体協議会(ナップ)、日本プロレタリア文化聯盟(コップ)とその地方協議会。戦旗社の内紛や、文芸戦線社の分裂を伝える資料を含む。

#### その他

上記分類に当てはまらないもの。日本プロレタリア・エスペ란チスト同盟(ポエウ)、プロレタリア図書館、ソヴェートの友の会、救援会などに関する資料。左翼文化団体以外の各資料を含む。

	A 浦西 資料	B 小樽 資料	C 大 原資 料	D 札 大資 料	E 其 他	計
文学	45	38	165	4	0	252
演劇	428	0	508	733	0	1669
映画	3	16	43	11	0	73
美術	34	8	65	10	0	117
写真	0	0	0	1	1	2
音楽	7	0	13	0	0	20
思想・ 宗教	39	10	73	3	0	125
政治	20	6	308	4	0	338
その他	85	7	162	7	0	261
計	661	85	1337	773	1	2857

表1: 資料のジャンル別および所蔵元別内訳

#### (4)その他

DVD版『昭和戦前期プロレタリア文化運動資料集』の刊行によって、本研究プロジェクトは当初の主たる目標を達成することができた。これに付随して、資料集の調査・分析をふまえた基礎的研究を研究論集としてとりまとめ、2018年度中に刊行する予定である。また、今後は、「プロレタリア文化運動」についての国内研究拠点をめざして研究活動を継続し、より多くの人に興味・関心を寄せてもらえるように普及活動にも取り組みたいと考えている。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 3 件)

中川成美、文学と情動:発見としてのプロレタリア文学、立命館文学、査読無、652号、2017、pp.1167-1177

<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/lt/rb/652/652PDF/nakagawa.pdf>

島本圭太、同化と異化のはざままで:佐多稲子「髪の歎き」における植民地的主体の形成について、立命館文学、査読無、652

号、2017、pp.1190-1203  
<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/lt/rb/652/652PDF/Toriki.pdf>

池田啓悟、慈善と信念をめぐって:宮本百合子「貧しき人々の群」論、立命館文学、査読無、652号、2017、pp.1204-1215  
<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/lt/rb/652/652PDF/Ikeda.pdf>

〔図書〕(計 2 件)

中川成美・村田裕和編、革命=芸術 プロレタリア文化運動、森話社、2018、352  
昭和戦前期プロレタリア文化運動資料研究会編、昭和戦前期プロレタリア文化運動資料集、丸善雄松堂、2017、DVD2 枚

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

村田 裕和 (MURATA, Hirokazu)  
北海道教育大学・教育学部・准教授  
研究者番号：10449530

### (2)研究分担者

内藤 由直 (NAITO, Yoshitada)  
立命館大学・文学部・准教授  
研究者番号：60516813

中川 成美 (NAKAGAWA, Shigemi)  
立命館大学・文学部・教授  
研究者番号：70198034

鳥木 圭太 (TORIKI, Keita)  
立命館大学・文学部・助教  
研究者番号：30749396

池田 啓悟 (IKEDA, Keigo)  
立命館大学・文学部・非常勤講師  
研究者番号：60749737

鴨川 都美 (KAMOGAWA, Satomi)  
日本女子大学・文学部・助教  
研究者番号：20757546

和田 崇 (WADA, Takashi)  
三重大学・教育学部・講師  
研究者番号：10759624

### (3)研究協力者

足立 元 (ADACHI, Gen)  
雨宮 幸明 (AMEMIYA, Komei)  
泉谷 瞬 (IZUTANI, Shun)  
伊藤 純 (ITO, Jun)  
浦西 和彦 (URANISHI, Kazuhiko)  
白井 かおり (SHIRAI, Kaori)  
武田 悠希 (TAKEDA, Yuki)

立本 紘之 (TATEMOTO, Hiroyuki)  
玉川 薫 (TAMAGAWA, Kaoru)  
正木 喜勝 (MASAKI, Yoshikatsu)